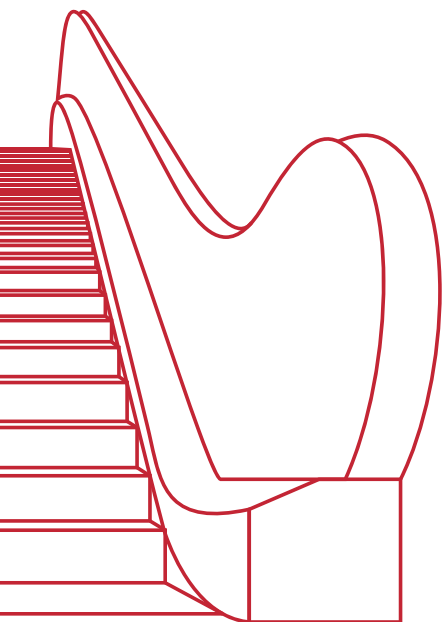
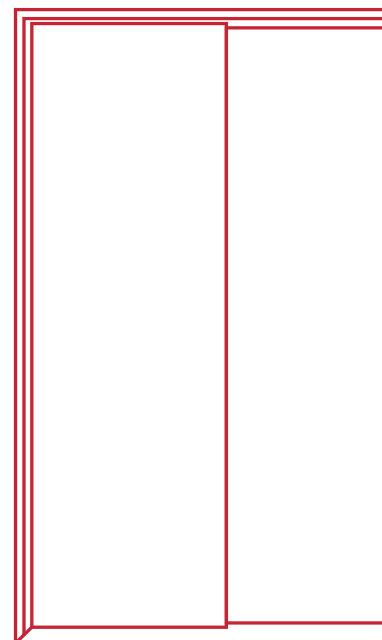


フジテック株式会社  
第77期 中間報告書  
2023年4月1日～2023年9月30日

証券コード:6406



75  
*th*  
FUJITEC



CONTENTS

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1 株主の皆さまへ          | 7 納入実績・新商品紹介     |
| 3 特集:「オールフジテック」始動! | 8 サステナビリティへの取り組み |
| 5 75年の軌跡           | 9 セグメント情報        |
| 6 TOPICS           | 10 財務ハイライト       |

株主の皆さまへ

## 新たな経営体制で 新しいフジテックを創ります



今年6月に代表取締役社長に就任した  
原田政佳でございます。

株主の皆さまには平素より格別のご高配を賜り  
厚く御礼申し上げます。

当社の第77期中間期(2023年4月1日から2023年9月30日まで)  
の事業報告とご挨拶を申し上げます。

### 経営理念を大切にし、 持続的な成長を目指します。

フジテックは今年で創業75周年を迎えました。これまで一貫して成長し続けたのは、すべてのステークホルダーの皆さまとの信頼関係があったからであり、この信頼関係を築けたのは、当社の経営理念である「フジテックは、人と技術と商品を大切にして、新しい時代にふさわしい、美しい都市機能を、世界の国々で、世界の人々とともに創ります」を事業の根幹に置き、“安全・安心”を最優先した商品・サービスを提供してきたからであると考えております。

これからもこの経営理念を大切にしていくことが当社の持続的発展の前提条件であると考え、経営に邁進してまいります。

### 2024年3月期第2四半期は増収増益。

当期間は、2022年度を初年度とする3カ年の中期経営計画“Vision24”における「販売戦略」「商品・技術戦略」「生産・オペレーション戦略」「コーポレート戦略」の各施策を推進してきました。その結果、2024年3月期第2四半期の業績は売上高1,070億円(前期比14.8%増)、営業利益83億円(前期比74.5%増)となりました。

通期見通しにつきましては、景気の大きな変動がないとの前提により、売上高は2,260億円(前期比8.9%増)、営業利益は138億円(前期比18.8%増)、経常利益は155億円(前期比16.3%増)と予想しております。

## 独自の強みを活かし トップ企業に向けて進化し続けます。

当社の強みの一つは、研究開発、生産、据付を製販一貫で行い、提供した商品に対して、保守・修理・モダンゼーションのサービスをライフサイクルに合わせて提供する、新設事業とアフターマーケット事業が一体となった循環型ビジネスモデルです。当社はお客さまの要望に対する機動性に富んだ柔軟な対応力と独自性が高く先進性・優位性を有する開発力をベースに、そして、なによりも“安全・安心”・快適で長期の信頼性の高い品質性能に優れた商品・サービスを提供することにより、お客さまとの強固な信頼関係を構築し、企業価値を高めてまいりました。もう一つの強みは、独立系のグローバル専門メーカーであることです。志を同じくする企業との結束や、業界を超えた産学官の連携も柔軟な対応が可能です。更に、AI、ロボティクス、IoTをはじめとした新技術を取り込むことにより、都市の課題解決を通して世界の都市機能の発展に貢献し、フジテックブランドを形成してきました。

一方、事業環境が大きく変わるなかで、過去の経験、やり方に固執することなく、本質的なところは生かしつつ、上手に更新して、柔軟に対応していかなければ、変化の激しい時代を生き抜いていくことはできません。これまでのやり方を抜本的に変えていく必要がある重要テーマについては優先的に取り組み、

真のグローバルトップ企業に向けて進化していく必要があると考えています。

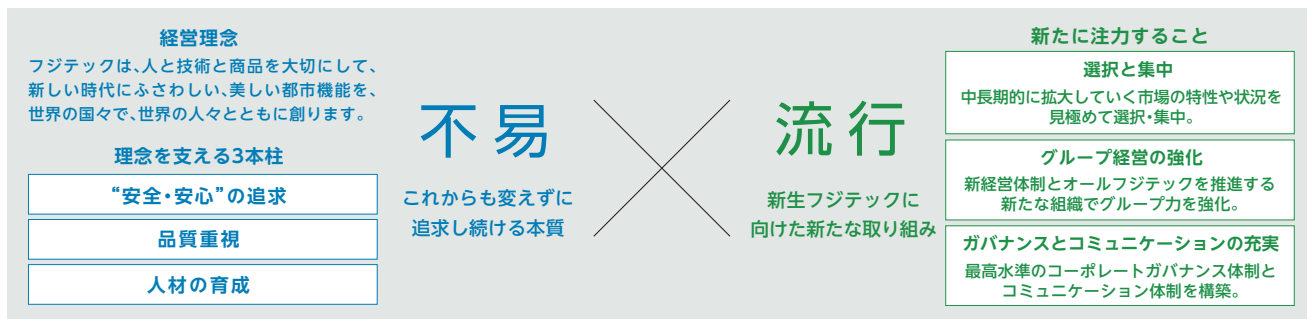
当社経営陣は、この実践に向けて、すべての役員・従業員が不易流行の考え方に則り、目標にコミットし業務執行することで、持続的な成長を遂げる世界トップクラスのエクセレントカンパニーとなることを目指してまいります。

## 今後のフジテックについて

“安全・安心”で快適にご利用いただける昇降機の実現を追求しながら、環境性能に配慮した昇降機も目指していきます。また、動き続ける都市での更新工事ではエレベータ・エスカレータの停止が困難なため、今後は工期が短く、据付設置が簡易で、人にやさしい、安全で快適な昇降機の技術開発が新たな需要創出の機会になるだろうと考えています。更に基本構造が変わっていないエレベータ・エスカレータの従来発想を超えたイノベーションにも挑んでまいりたいと考えております。

社会インフラの一端を預かる企業として、すべての人々に“安全・安心”と快適な移動空間を提供し、次世代の都市における社会課題を解決していくことで、ステークホルダーの皆さまのご期待に応えてまいります。

株主の皆さまには、今後とも末永いご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## “安全・安心”の追求

株主さま、お客さま、従業員など、当社が関係するすべてのステークホルダーに“安全・安心”を提供することは、当社の企業活動におけるすべての事項に優先されるべきものです。当社は20年30年の長期間にわたる機器の維持管理などの社会インフラを担うエッセンシャルワークを責務とする企業として、利用者さまにとって、お客さまにとって、従業員にとっても、“安全・安心”を最優先とする商品・サービスの提供を続けてきました。今後もこの姿勢を守り続けることで当社に対する信頼を更に高めていきます。

## 品質重視

当社は、日本市場で磨き、海外市場で鍛えたフジテック・クオリティーを今後も世界展開における商品・サービスのスタンダードとして設定し、コスト競争力を兼ね備えた品質基準を展開していきます。長期にわたって当社商品を“安全・安心”にご利用いただける品質はお客さまの信頼に繋がります。この信頼関係をより強固にするために、開発・調達・生産・フィールドが連携して、品質管理能力の強化、初期品質や長期保証の確保を進めます。同時に生産の自動化や据付の効率化によるコストダウン、業務プロセスの見直しなど経営品質の向上に取り組み、品質において世界トップレベルのメーカーを目指します。

## 人材の育成

「安全・安心」の追求や「品質重視」を貫くには、人材こそが最大の財産であり、競合他社との差別化の要諦です。当社がグローバルBig 8の一角となりえたのは、従業員の真摯な姿勢が評価されてきたからで、とりわけ保守や据付の従業員は関係先やお客さまから高く評価され、信頼されています。これは、ホスピタリティに富んだ各従業員が心身ともに健康であり、安定していることの上に成り立ちます。組織風土であるチャレンジを促し、業務を通じた育成によって個々の従業員が成長を実感できる健康的かつ健全な職場環境を提供していきます。



# 「オールフジテック」 持続的な

オールフジテックで追求する3つの

# 不易





# で実現する 成長と社会への貢献

オールフジテックで追求する3つの

## 流行



### 選択と集中

エレベータ・エスカレータは重要な社会インフラであり、中長期的には需要拡大が見込めますが、市場の特性や状況を見極めて選択し、集中していくことが重要です。

国内では都市機能の再強化が進む首都圏・近畿圏のみならず、地方都市の再開発でも受注が拡大しています。海外ではインドをはじめとする成長市場では新設事業が、シンガポールや香港などの成熟市場ではアフターマーケット事業が堅調に推移しています。移動システムのプロフェッショナルとして、新たなソリューションの提供を積極的に進め、エレベータ・エスカレータ自体の市場価値向上による収益拡大にも取り組めます。

### グループ経営の強化

新体制では、技術・生産・管理の領域ごとに管掌役員を配し、意思決定における専門性・透明性の向上、後継者育成を図るとともに、更なるグループ力強化として、現場主義とグローバルイゼーションの徹底を進め、従業員の意識改革、行動変容に取り組んでいます。

現場主義は、課題は現場にあり、将来の潜在的なヒントも現場にあるという考え方で、新人も役員も問題の本質を見抜くために自ら現場に出向いて、自らの目で確かめ、直接話を聞き、手にとり、自ら考えるといったことを掲げています。グローバルイゼーションでは、多様な価値観を持ち、グローバルな視点で物事を考え、ローカルの課題を解決できるグローバル人材を積極的に育成します。

### ガバナンスとコミュニケーションの充実

株主さま、お客さま、従業員、パートナーなど、すべてのステークホルダーに向けて社内外の双方向のコミュニケーションを強化し、情報開示の更なる充実を進めます。具体的には、経営陣と従業員との対話、四半期決算説明の充実、情報開示の更なる充実化と迅速化、株主さま・投資家の皆さま・資本市場との対話、ステークホルダーとのコミュニケーションの好事例企業としての認知向上などに取り組めます。

上場企業に求められる最高水準のコーポレートガバナンス体制とコミュニケーション体制を構築して企業価値の最大化に努めます。

## 1948-1973

## 世界は一つの市場

終戦直後の1948年、故・内山正太郎名誉会長（当時30歳）が独立し、エレベータ製造メーカーとして「富士輸送機工業」を設立し、大阪市西区に本社を構えました。創業期は関西地区を中心にエレベータの事業を拡大していました。



内山正太郎名誉会長（写真右）

## 創業 1948

1962 国内初のビル内蔵型・立体駐車設備を納入

1964 フジテック・ホンコンを設立

## 1972 フジテック・シンガポールを設立

シンガポール市場の開拓に尽力した創業期のメンバー



## 1974-1990

## 独創技術への挑戦

分速600mの超高速直流ギャレス・エレベータを開発  
アメリカ・オハイオ州に世界最大規模のエレベータ工場を建設

1974 「フジテック株式会社」に社名変更  
東京および大阪証券取引所市場第一部に上場

1976

1982

1988 ファジーコンピュータを活用したエレベータ群管理システムを世界に先駆けて開発

## 1991-2022

## 更なる事業拡大への布石

## ヘリカルギャと超低騒音インバータ制御のエレベータ「エリシオ」を開発



エレベータ群管理システム「ニューロス」を世界に先駆けて開発



## 駅舎用エレベータ「ラクール」を開発



エスカレータ開発・生産拠点“ビッグステップ”が完成



## エレベータ非接触ボタン「エアータップ」を開発

## 1991

1993 国内エレベータ業界で初めて国際品質規格「ISO9001」の認証を取得

1995

## 2001

世界初のダブルデッキ・エレベータ「フレックス-DD」を開発

## 2005

新型マシルームレス・エレベータ「エシード-α」を開発

2006

世界一の高さと規模を誇る地上170mのエレベータ研究塔が完成

2008

東京本社を開設し“ビッグウィング”との2本社体制を構築

2009

エスカレータの安全性を高める「フットセーフティセンサー」を業界で初めて開発

## 2010

## 2011

省エネ・省スペース型エスカレータ「スリムフィット」を開発

2014

華昇フジテックに新エレベータ研究塔が完成

## 2020

2022

フジテック・インド 第二工場・新研究塔完成



## 2023~

## 新たな経営革新へ

75周年を記念して、フジテックの過去と未来をひもとくスペシャルコンテンツを順次公開していきます。 [https://www.fujitec.co.jp/75th\\_anniversary](https://www.fujitec.co.jp/75th_anniversary)



# TOPICS

## 国内での取り組み



日本

### 品質に特化した 解析・評価センター の建設開始



設計監理・CG制作：日建設計

滋賀県彦根市にある拠点「ビッグウィング」の敷地内に、エレベータの部品解析・評価センター「(仮称)品質ラボ棟」を建設します。本施設は、従来の商品開発における技術の機能評価と一体となって進めてきた実験・検証を、品質面に特化して行う施設で、エレベータ各種部品の性能・信頼性・安全性を評価する実験設備や、走行テストなどを行う検証用のエレベータを備えます。同施設の完成により、商品の更なる品質向上と開発・調達・生産・据付における効率化を図ります。

## 海外での取り組み



インド

### エレベータの新工場を全面稼働

フジテック・インド社は、第二工場を建設し、本年2月に全面稼働いたしました。需要が高まるインド国内での拡販や、南アジア地域への輸出拡大を目的に建設し、生産スペースは従来の2倍以上に拡張しました。



業績予想の修正		
当社の連結子会社であるFUJITEC (HK) Company Limited が所有する固定資産の譲渡に伴い、固定資産売却益の特別利益への計上を行いました。そのため、業績予想の修正を下記のとおり行いました。		
	修正前業績予想	修正後業績予想
売上高	2,230億円	<b>2,260</b> 億円
営業利益	134億円	<b>138</b> 億円
経常利益	151億円	<b>155</b> 億円
親会社株主に帰属する当期純利益	104億円	<b>156</b> 億円



カナダ

### Stampede Elevator Inc.の株式取得

FUJITEC Canada Inc.を通じて、Stampede Elevator Inc.の株式取得を行いました。Stampede社は、カルガリー地域で保守事業を営む企業です。今回の株式取得を通じて、M&A戦略に掲げている、成熟市場における保守事業の強化および、カナダにおけるプレゼンスの向上を目指します。

#### Stampede社の概要

名称	Stampede Elevator Inc.
代表者	Ian Murray, Jason Watmore
設立年月	2014年5月
事業内容	カルガリーでの昇降機の保守・修理・モダンゼーション

## 納入実績・新商品紹介

### 日本 麻布台ヒルズ

日本一高いビル含む2街区で縦の移動を支える。日本国内における過去最多納入台数プロジェクト。



計**110**台納入予定

#### POINT 1

A街区・森JPタワーにエレベータ・エスカレータ計66台を設置

#### POINT 2

一度に多くの人を運ぶダブルデッキエレベータ\*を16台導入

#### POINT 3

ボタンをタッチレス化で操作できる「エアータップ」を納入

#### ダブルデッキエレベータとは

かごが上下に連結した2階建てエレベータ。2つのフロアで同時に乗り降りを行い、1度にかご2つ分の利用者を運ぶことが可能に。

ダブルデッキエレベータ(イメージ)



### シンガポール OUBセンター

竣工後30年以上経過のリニューアル工事。竣工時の納入からメンテナンスまでサポート。



**19**台納入  
(リニューアル)

#### POINT 1

分速420mから480mに速度アップ

#### POINT 2

新運行システム導入による移動時間の短縮

#### POINT 3

制振装置によるかごの揺れ低減

### インド シグネチャー・グローバル・シティ

インド・ブルガオンの大規模住宅開発プロジェクト向けに受注。2025年完成予定。



**538**台受注

## 新商品情報

### フジテック製大型エレベータ向けの「制御盤交換パッケージ」



当社製の大型エレベータ向け「制御盤交換パッケージ」の販売を開始しました。今回、商品ラインアップを拡充したことで、すべての当社製エレベータで「制御盤交換パッケージ」が使用できるようになりました。安全な運行に重要な制御機器に絞って交換するため、短工期・低コスト・環境にもやさしいリニューアルが可能となります。今後もお客様のニーズに寄り添った商品の拡充を進め、エレベータの“安全・安心”な維持管理と持続可能な社会の実現に貢献します。

工期

約**1/6**に短縮

費用

約**1/2**削減

廃材の削減を実現



# サステナビリティへの取り組み

## 「ダブル連結トラック」第24回物流環境大賞で「特別賞」を受賞

当社が導入をしている「ダブル連結トラック」の活用が、CO<sub>2</sub>排出量削減、ドライバーの労働環境の改善などに寄与したとして、「第24回物流環境大賞」の特別賞を受賞しました。\*

物流業界では、ドライバーの深刻な労働力不足が物流の停滞を招き、経済活動のボトルネックになると懸念されています。この状況を受け、当社では昨年3月より「ダブル連結トラック」を導入してきました。従来の共同運行に加え、今回新たに当社の荷物のみを積む専有運行トラックを2車両導入しました。

※センコー株式会社、旭化成ホームズ株式会社と3社で共同受賞



### ㊦ ダブル連結トラックとは

1人のドライバーが大型トラック2台分の荷物を輸送できるシステム。効率性や安定性だけでなく、ドライバーの拘束時間とCO<sub>2</sub>排出量を削減するサステナブルな輸送方法です。

#### 共同運行



#### 専有運行



## 労働安全衛生指針と健康宣言を公表

“安全・安心”を最優先とする企業活動を行うための「労働安全衛生指針」と、全従業員およびその家族・パートナーの健康増進を目指すための「健康宣言」を公表しました。

“安全・安心”な商品・サービスを提供する企業グループとして、フジテックで働くすべての人が心身ともに健康で、安全で快適な環境のもと、一人ひとりがいきいきと活躍し続ける職場を創造します。

## 社長就任会見と取締役専務による現場訪問を実施



取締役 佐藤 浩輔      代表取締役社長 原田 政佳      代表取締役専務 中島 隆茂

社長就任会見はこちらから  
<https://www.fujitec.co.jp/announcement/8869>



労働安全衛生指針と健康経営宣言についてはこちらから

[https://www.fujitec.co.jp/sustainability/safe\\_and\\_reliability/health\\_management](https://www.fujitec.co.jp/sustainability/safe_and_reliability/health_management)



9月19日、社長就任会見において「不易流行に基づく、新しいフジテック経営のあり方に関する所信表明」を発表し、「不易」と「流行」についてそれぞれ3つの柱を挙げて説明をしました。また、従業員への周知のため、取締役専務2名が各拠点を訪問する「専務キャラバン」を実施しました。当社の持続的な成長に向けたコミュニケーションの充実を図りました。㊦ 不易流行の考えについては、P.3-4の特集ページをご覧ください

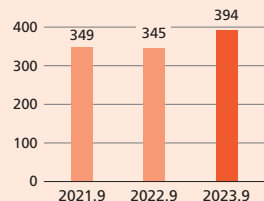
# セグメント情報 ※売上高、営業利益のグラフ数値は調整前の数値です

## 日本

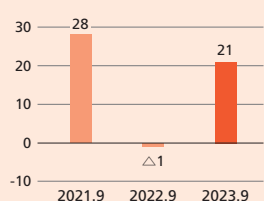
売上高 **394** 億円 営業利益 **21** 億円

売上高は、新設事業およびアフターマーケット事業のモダンゼーション工事で、前年同四半期の上海ロックダウンによる工事延伸に伴う売上高の減少に対する反動により、前年同期比14.1%増となりました。営業利益は、売上高の増加による採算の改善で23億7百万円増加しました。保守は引き続き堅調に推移しました。

売上高 (億円)



営業利益 (億円)

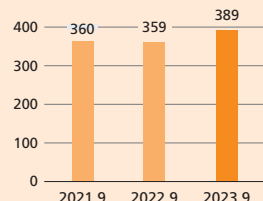


## 東アジア

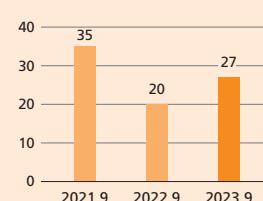
売上高 **389** 億円 営業利益 **27** 億円

売上高は、中国では不動産不況下での受注減による手持ち案件の減少の影響で新設事業が減少したのに対し、香港でモダンゼーション工事が増加したことなどにより、前年同期比8.3% (為替の影響を除くと3.2%) 増となりました。営業利益は、中国の新設事業での原材料費の高騰が一段落した他、香港での工事損失引当金の減少などにより、7億3百万円 (為替の影響を除くと4億64百万円) 増加しました。

売上高 (億円)



営業利益 (億円)

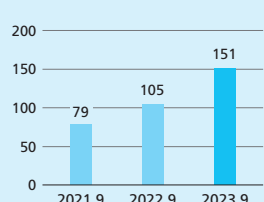


## 南アジア

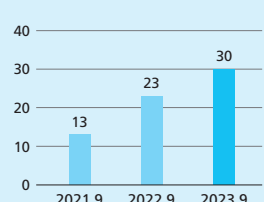
売上高 **151** 億円 営業利益 **30** 億円

売上高は、新設事業では主にインド工場拡張により生産能力が向上し出荷台数が増加、アフターマーケット事業ではシンガポールでの修理工事が増加したことにより、前年同期比43.4% (為替の影響を除くと30.6%) 増となりました。営業利益は、シンガポールではアフターマーケット事業の売上増加、インドでは新設事業で黒字化したことにより、7億44百万円 (為替の影響を除くと3億89百万円) 増加しました。

売上高 (億円)



営業利益 (億円)

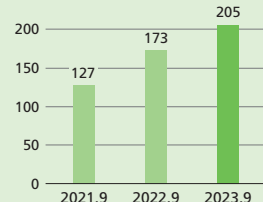


## 米州・欧州

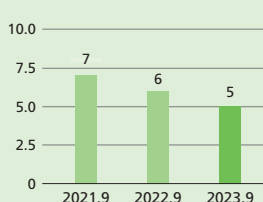
売上高 **205** 億円 営業利益 **5** 億円

売上高は、新設事業では米国で前期に大型案件が進捗した反動で減少したのに対し、アフターマーケット事業では主に米国でのモダンゼーション工事が増加したことで、前年同期比18.8% (為替の影響を除くと13.3%) 増となりました。営業利益は、米国の新設事業では運搬費の減少およびアフターマーケット事業で保守単価の増額により改善した一方で、カナダの新設事業での採算低下による影響などで47百万円 (為替の影響を除くと1億16百万円) 減少しました。

売上高 (億円)



営業利益 (億円)

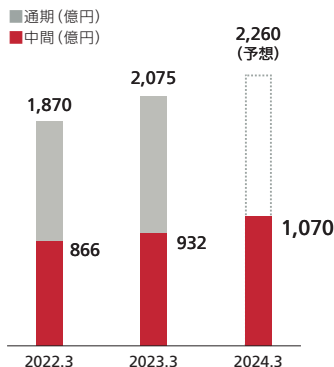


# 財務ハイライト

## 売上高

前年同期比 14.8%増

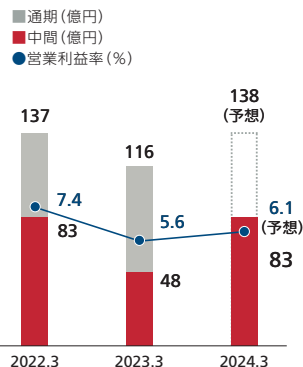
**1,070** 億円



## 営業利益

前年同期比 74.5%増

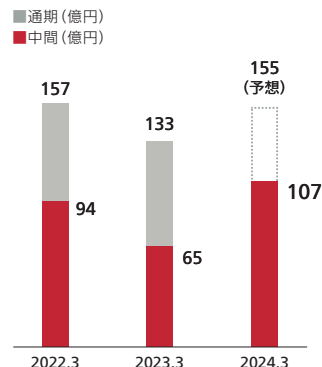
**83** 億円



## 経常利益

前年同期比 64.7%増

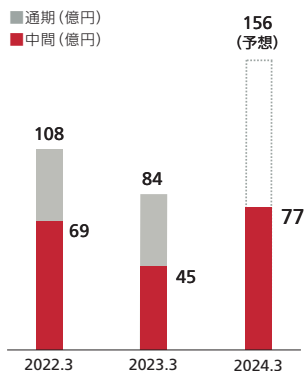
**107** 億円



## 親会社株主に帰属する当期純利益

前年同期比 68.0%増

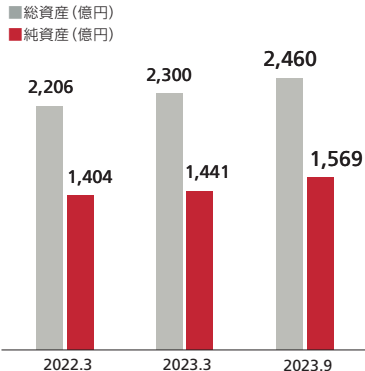
**77** 億円



## 総資産

前期末比 159億円増

**2,460** 億円



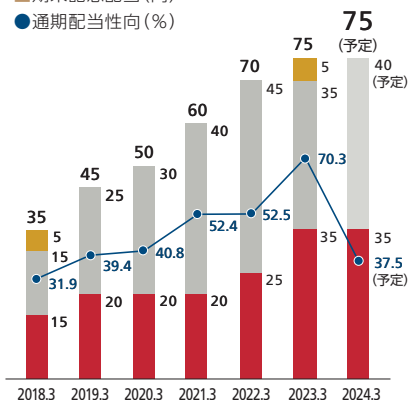
## 純資産

前期末比 128億円増

**1,569** 億円

## 配当金・配当性向

■ 期末 (円)  
■ 中間 (円)  
■ 期末記念配当 (円)  
● 通期配当性向 (%)



当社の業績に関する詳しい情報は、こちらからご覧いただけます。

IR情報

<https://www.fujitec.co.jp/ir>



# 企業データ

## 会社の概況 (2023年9月30日現在)

創業	1948年2月9日
資本金	125億3,393万円
所在地	本社ビッグウイング 滋賀県彦根市宮田町591番地1 TEL(0749)30-7111 東京本社 東京都港区白金1丁目17番3号 TEL(03)4330-8200
連結子会社	24社

## 役員 (2023年9月30日現在)

代表取締役社長	原田 政佳
代表取締役専務	中島 隆茂
取締役	佐藤 浩輔 三品 和広 海野 薫
社外取締役	トーステン・ゲスナー クラーク・グラニンジャー 嶋田 亜子 アンソニー・ブラック
監査役(常勤)	宇都宮 靖雄 伊垣 武治
社外監査役	池田 辰夫 山崎 美行

## 株式の状況 (2023年9月30日現在)

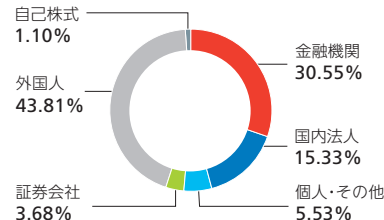
発行済株式の総数	78,900,000株
株主数	4,446名
上場証券取引所	東京証券取引所

## 大株主一覧

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,238	11.84
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	6,080	7.79
株式会社ウチヤマ・インターナショナル	5,043	6.46
BNP PARIBAS LONDON BRANCH FOR PRIME BROKERAGE CLEARANCE ACC FOR THIRD PARTY	3,980	5.10
株式会社りそな銀行	3,889	4.98
MOJAVE INVESTORS LTD.	2,759	3.54
OASIS JAPAN STRATEGIC FUND LTD.	2,472	3.17
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,423	3.11
サント株式会社	2,386	3.06
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 510312	2,116	2.71

(注)持株比率は2023年9月30日現在の発行済株式総数である78,900,000株から自己株式869,295株を除いた78,030,705株を基準に計算しています。

## 所有者分布状況



## 株式についてのご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当:毎年3月31日 中間配当:毎年9月30日
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載することといたします。 ホームページアドレス <a href="https://www.fujitec.co.jp/koukoku">https://www.fujitec.co.jp/koukoku</a>
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内1丁目4-1 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8-4 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 (0120)782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00(土日休日を除く)

# フジテック株式会社



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。



環境負荷の少ない  
「植物油インク」を  
使用しています。



FSC®認証材および管理原材料から作られています。